

- 1 題材名 音楽の楽しみ
教材名 「ラヴァース コンチェルト」

2 題材目標

- (1) いろいろな楽器に関心を持って意欲的に楽曲を表現しようとする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 楽器の特徴的な音色や奏法を感じ取り、曲にふさわしい奏法を工夫することができる。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 楽曲を演奏するための基礎的な表現の技能を身に付けている。(表現の技能)

3 指導にあたって

(1) 教材観

1年生ではアルトリコーダーやギター、打楽器のアンサンブルなどを学習してきたが、合奏として取り組むことが少なかった。それはそれぞれの楽器の技能習得に時間がかかり、合奏まで至らなかったからである。その点、本教材はポップスに編曲されるなどして馴染みやすいメロディーであること、また2部形式で短くまとめられており、同じパターンを2度繰り返せばいいことなどから、技能の習得のための時間は比較的短くすることができ、合奏に適している。ただし、ギターやピアノなどコード進行に関わる楽器は1小節に2回ずつ進行していくのでやや難しいが自分の技能に合わせて楽器が選べるので、それぞれが達成感を味わえると思われる。

(2) 生徒観

本校の生徒は、楽器に対して大いに興味がある。技能については、読譜力・リズム感・運指と音づくりに至るまでにたくさんのハードルを越えなければならず、苦手と考えている生徒も見られる。特にメロディーライン以外の旋律などを一斉に練習していると、中には途中で楽器の奏法をあきらめるなど集中力に欠けたりする時もある。こうした現状をふまえて、生徒がそれぞれ興味を持った楽器を選び、各々が満足できるようにしたいと考えている。

(3) 指導観

合奏としてその楽曲にふさわしい曲想や音色をつくることも大切であるが、本教材では合奏の導入の部分、つまり様々な楽器にふれることにより、まず「楽器はむずかしい」という先入観をなくし、楽器や合奏に関心を持って取り組ませたいと考えている。また、楽器に取り組むことで今後楽器を中心とした鑑賞への興味も高まっていくと思われる。いろいろな段階の難度の奏法を準備し練習することにより、体験をもとに自己評価し自分に合った楽器や課題を自己決定させたい。それにより、それぞれが達成感を失わずに合奏に親しむような指導をしていきたい。また、基本的なリズムやリコーダーなどの単旋律を中心としたグループと自分で楽器を弾きこなすことのできる発展的なグループに分かれて練習をすることにより、合奏の楽しみを味わうとともに無理なく自分なりに課題にせまらせたいと考えている。

(4) 評価観

ワークシートを使いながら、自分が自己評価できるようにした。そうすることで自分に合った楽器や課題を選ぶことになり、次時の目標も設定することができると思う。また、練習時の個別指導やグループ別指導では、主に楽器の技能面について観察、評価をしたいと考えている。自己評価、相互評価の方法としては、感想発表や意見交換などを取り入れていきたい。

4 学習計画と本題材の評価規準（総時間 5時間）

配時	次	学習活動	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽的な感受や表現の工夫	③表現の技能	④鑑賞の能力
一	1	CD鑑賞、リズム奏、歌唱により曲想をつかむ。	楽器の特徴や奏法に興味を持ち、意欲的に触れてみようとする。	いろいろな楽器の音色や全体の響き、組み合わせを感じ取っている。		
	2	基本的なアルトリコーダーの奏法に取り組む。			リコーダーの奏法に気を付けて表現する技能を身に付けている。	
二	1	いろいろな楽器の基本的奏法に取り組む。	いろいろな楽器に興味を持ち、意欲的に表現しようとする。			
	2	楽器別のグループ練習に取り組む。			楽器の特性を理解し、器楽表現をする技能を身に付けている。	
	3	合奏の工夫楽器の特徴や曲想を生かして合奏する。	自分で選んだ楽器に興味を持ち、合奏表現をすることに意欲的である。	楽器のバランスや奏法を組み合わせながら曲想を工夫している。		

5 本時の学習（二次中の3時）

(1) 題材名 音楽の楽しみ

教材名 「ラヴァース コンチェルト」

(2) 学習のねらい

楽器の特徴を生かし、音色や奏法を組み合わせながら曲想を工夫して合奏の楽しさを味わう。

(3) 評価規準

① 自分で選んだ楽器に興味を持ち、合奏表現をすることに意欲的である。

(音楽への関心・意欲・態度)

② 楽器のバランスや奏法を組み合わせながら曲想を工夫している。

(音楽的な感受や表現の工夫)

(4) 準備

リコーダー、ギター、ピアノ、ベース、打楽器、電子楽器、ワークシート

(5) 学習活動と評価

段階	配時	学習内容・活動	評価場面・評価方法及び支援
導 入	5	1 前時の自分たちの演奏を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・合奏したときのイメージを抱くことができるように配慮する。 どんなところがよかったか。あるいは足りないか。 どんな感じに演奏したいか。
	10	2 本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな表現をしたらこの曲らしさを出せるか工夫するように方向づけをする。 ポップな感じ リズムにのっている感じ 明るい感じ 楽しい感じ 元気な感じ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○○な感じで 自分たちだけの「ラヴァース コンチェルト」を合奏しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的には、それぞれの楽器の音のバランスを考えた上で、パートごとに奏法などを話し合っって練習させる。
展	15	3 パート練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・パートリーダーを中心に話し合いを生かして練習させる。 <p>評価観点①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 場面設定 パートの中で意欲的に音の組み合わせやバランスを考えて練習する。 </div> <p style="text-align: right;">【行動観察】 【表現活動】</p> <p>評価規準</p> <p>A：パート全体のバランスを考えて意欲的に練習している。</p> <p>B：自分で選んだ楽器に興味を持ち、合奏表現をすることに意欲的である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○楽器の奏法でつまずいている生徒には適切な指導を行う。 ○パート内の話し合いに対して自分の意見を持つように助言する。 </div>
	10	4 全員で合奏する。	<p>評価観点②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 場面設定 パート練習の成果を発揮して、全員で合奏する。 </div> <p style="text-align: right;">【行動観察】 【表現活動】</p> <p>評価規準</p> <p>A：自分のパートだけに限らず、全体の音のバランスや曲の流れを大切に合奏するように工夫している。</p> <p>B：楽器のバランスや奏法を組み合わせながら曲想を工夫している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○本時の課題を確認しながら、指揮や動作など身体全体で曲想を感じるように助言する。 ○リコーダーの音を聴きながら演奏するように助言する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・録音して聴かせる。
開	5	5 意見交換する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に迫る意見交換がされるように助言する。 ・表現の工夫ができた演奏であったかを振りかえらせる。 ・課題に迫るために、どんな点を改善すればよいか考えさせる。
	5	6 本時のまとめと自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに気づいたことを書き込ませ、本教材のまとめとする。

—— B規準に達しない生徒への支援